

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎カラー特集 国際青年交流会議
SSEAYP International 総会

マクロコズム 2001.9



vol. 42

(財)青少年国際交流推進センター

国際青年交流会議 (2000年7月16日)



▲ レセプションにて外国青年と懇談される皇太子殿下



レセプションで歓迎の挨拶をする福田官房長官 ▶

「国際青年交流会議」は、皇太子同妃両殿下の御成婚を記念して、平成6年度より始められた「国際青年育成交流」事業の外国青年招へいプログラムの一環として開催されるもので、同事業に参加する日本派遣青年と外国招へい青年約300人が一堂に会しました。開会式の後、日本在住の外国既参加青年をパネリストの中心にしてパネルディスカッションが行われました。次に、「新たな交流の世紀への期待」をテーマにグループ討論を行い、夜には、皇太子殿下の御臨席の下に歓迎レセプションが催され、和やかな懇談の席が持たれました。招へい青年は、「国際青年交流会議」を皮切りに、表敬訪問、都内での課題別視察、5府県（滋賀県、京都府、島根県、鳥取府、岡山県）に分かれてのホームステイを含めた地方プログラム、そして福岡県で開催された「国際青年の村」を体験し、7月14日の到着から25日間にわたるプログラムを終了して8月7日に帰国しました。

▶ パネルディスカッションで司会を務める
日本青年国際交流機構森田副会長



▼ 既参加青年によるパネルディスカッション



▲ 国別に分かれてのグループディスカッション



SSEAYP International 第14回総会 (タイ: バンコク)

2001年6月21日 ~ 24日



◀ タイ外務省副大臣に記念品を渡す
日本青年国際交流機構酒井会長

第1回「東南アジア青年の船」タイ参加青年で現在、
▼ 上院議員であるグワンボット氏の総会基調講演



◀ テーマ別の分科会

▼ サメッド島での小学校訪問



◀ アンダマン・プリンセス号からサメッド島への上陸風景





～「東南アジア青年の船」 に終わりはない～ (SIGA Thailand)

滝澤 元

(第27回「東南アジア青年の船」参加青年)

◀ 同期の上森さんとカントリーレポートを発表する筆者

私は2000年の第27回「東南アジア青年の船」(東ア船)に参加した訳であるから、わずか半年前「にっぽん丸」を降りたばかりである。まるで一生分の楽しさをわずか54日間で使い果たしてしまったような感動に満ち溢れた夢のような「にっぽん丸」での生活と、単調なデスクワークで毎晩遅くに帰宅する現在の生活とのギャップを埋めるのに苦労していた。そんな中、あの感動をもう一度味わいたいという思いで、鮭が生まれ故郷の川

の上流に戻るようにSIGAに参加した。

参加した当初は、一抹の寂しさが自分の心の中で去来していた。アングマンプリンセス号は、「にっぽん丸」に似てはいるがやはり違う。自分の知った顔も同期のタイ参加青年の数人だけだった。「にっぽん丸」で一緒に笑い合ったあの人達は今ここに居ない、という寂しさを感じていた。しかし、それは自分がSIGAを第27回「東南アジア青年の船」という狭い枠組みの中でしか考えて

❖ 主な内容 ❖

「東南アジア青年の船」に

終わりはない (SIGA Thailand) …5～6
初めての海外に行って ……7
第14回 SIGA ……8～9
相手を認めること ……10～11

『子ども・若者の居場所の構想—

「教育」から「関わり場」へ』……12～13
お知らせ(ブロック大会日程/平成13年度
内閣府青年交流事業地方日程/SWY
リユニオンリフレッシュ・クルーズ等) ……14～20

〈表紙の説明〉

SSEAYP International
第14回総会(於:バンコク)
各国活動組織代表者とタイ政府
日本政府代表者(開会式にて)

いなかったからだとすぐに気付いた。SSEAYP FAMILYとは、自分と同じ回に参加した青年だけを言うのではなく、歴代の参加青年全てが同じ「にっぽん丸」で感動を分かち合った兄弟・姉妹なのだったと思った瞬間から、俄然SIGAとその参加者に興味を覚えた。

周りを見渡すと、自分と同じ相当重症のSSEAYP SICKにかかっている人達がアセアン各国から大勢来ていた。「にっぽん丸」の上で生涯忘れられない深い感動をした人ほど、東ア船が終わって10年、20年たっても懐かしんでSIGAにやって来るのだと思った。そういう人達は皆一様にいくつになっても若さを保っていると感じた。髪に白いものが混じり薄くなっても、東ア船のことを語る時には、心や瞳の輝きは参加青年の時そのままという感じがした。SIGAに参加して東ア船で知り合ったアセアンの仲間に会うことによって、自分が参加青年だった頃にタイムスリップしてしまっているように感じた。そして自分もそのように歳を重ねていきたいと思った。SSEAYPに日本代表参加青年として参加できるのは、後にも先にも一度きりである。しかしSIGAには毎年参

加することができる。

今年も各国・各年度から名物男、名物女がたくさん集結し、多くの素晴らしい魅力的な人達と知り合うことができた。言ってみればSIGAは一年に一度、東ア船のオールスターが勢揃いするグラウンドチャンピオン大会なのだったと思った。参加した年度が異なれば体験も異なる。また同じ回に参加しても青年が300人いれば300通りのSSEAYPがある。そうした一人一人が感じた東ア船の思い出話に耳を傾けるのはとても面白く、今後も様々な人達から話を聞かせてもらいたいと思う。それにしても、バンコクの炎天下でヨサコイを連続3回も踊ったのはキツかった。あの日は、朝5時まで第26回のTemや総会の女性司会者をした25回のJaと語り合っていた。

私は昨年「にっぽん丸」を降りてから、心にぽっかり穴があいてしまったように寂しさを感じていた。でもこれからは一年に一度のSIGAを待ち望んで毎年参加していきたいと思う。参加する毎に各国・各年度に知り合いが増えて面白みが増していくに違いない。東ア船に終わりはなく、とつくづく感じた素晴らしいSIGA Thailandであった。



「よさこい」で来年の日本SIGAをアピール

初めて海外に行って

亀本 真道

(一般参加 山口大学3年)

「今年のSIGAは、タイであるらしい。」はじめてこのことを聞いた瞬間から、私の心は決まっていた。「絶対に参加する!」と。今まで私は、E.S.S.という英語のサークルで英語を勉強してきましたが、海外には一度も行ったことがなく、自分の英語能力を試す機会がほとんどありませんでした。そんなときにこの話を聞き、これは自分を試す絶好のチャンスだと思い、参加を決意しました。が、不安もたくさんありました。初めての海外、しかも一年生を4人引き連れていくという責任感、そしてなにより、他の参加者の方とうまくやっていけるのだろうかという不安。しかし向こうの空港に着いてみると、地元の青年たちがあたたかく、明るく、元気に出迎えてくれ、私の持っていた不安は一瞬のうちに吹っ飛んでしまいました。それは、ホテルに着いてからも同じでした。ホテルで出会った参加青年の方々も、みな気軽に声をかけてくださり、初めての海外で緊張していた私は、とてもリラックスすることができ、その日の夜は何の不安もなく、爆睡することができました。

二日目の午後はグループディスカッションがあったのですが、私たちはオプションツアーに参加しました。ツアーは大変楽しかったのですが、ツアーはいつでもできるものであり、せっかくの機会だから、他の青年たちと英語で議論をしたほうが自分たちのために良かったのではないかと少々

後悔しています。また、その日の夜からは船に乗り込んでの移動だったのですが、ここでの部屋の振り分け方に関して、日本人同士で同じ部屋というのではなく、さまざまな国の青年たちと同じ部屋であれば、もっと交流が深まったのではないかという気がしました。

三日目のサメッド島での活動は、大変印象深いものでした。特に初めて食べたドリアンの味は一生忘れることはないでしょう。その後、地元の小学校を訪問できたのは、とても良かったと思います。日本の学校しか見たことのない私にとっては、とても貴重な経験であり、子供たちの笑顔がとても印象的でした。また、海も大変きれいで、思いっきり楽しむことができました。しかし、昼間の疲れと船のゆれから、船に帰ってからは体調を崩してしまい、夜のプログラムにまったく参加できなかったのが非常に残念でした。

そしていよいよ最終日。船を降りる際に日本人で行った“よさこい”が、非常に楽しかったです。他国のみなさんのうけも良かったみたいです。今後、海外青年と交流するときには使ってみようと思います。

このタイでの4日間は、本当にあっという間でした。たくさんの人たちに出会えて、楽しい思い出もたくさんできましたが、同時に自分の英語能力の低さも痛感させられてしまいました。これから今まで以上に英語を勉強し、また「世界青年の船」や「東南アジア青年の船」に参加し、次回は“observer”としてではなく、BATCHの欄にきちんと数字が書いてある、英語がもっと話せ、そして船酔いに強い日本人として参加できるように頑張っていこうと思います。

第14回総会（タイ）

The 14th SSEAYP International General Assembly in Thailand

～ SSEAYP Synergy ～

開催日時：平成13年6月21日（木）～24日（日）

開催場所：タイ王国 ソフィテルセントラルバンコクホテル サメッド島

参加者：約250名 ブルネイ、カンボディア、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ヴィエトナム

目的：(1) 「東南アジア青年の船」既参加青年の相互理解と友好の促進
(2) アセアンと日本の国際的ネットワークの確立
(3) 「東南アジア青年の船」事業への協力のための各参加国の関係強化

特徴：(1) ホテル及び船内でのバラエティーに富んだプログラム内容
(2) タイ同窓会組織の緻密な準備及びスムーズな運営
(3) ホームページ上での様々な情報提供
(4) 「世界青年の船」及び「国際青年育成交流」事業既参加青年の参加

サメッド島ではフラワーレーン
でのお出迎え



▼ サメッド島の小学校の子ども達と



プログラム概要：

日 時	プ ロ グ ラ ム
6月21日(木)	第14回 COP (Council of Presidents) 参加者到着
6月22日(金)	第14回 SIGA 開会式 来賓の入場 Mr. Virath Damrongphol, Deputy Permanent Secretary, Office of the Prime Minister Ms. Sienoi Kashemsanta Na Ayudhdhaya, Secretary General, National Youth Bureau 基調講演 Dr. Kantathi Suphamongkhon, Advisor to Minister of Foreign Affairs of Thailand 総会・SI レポート・各国活動紹介
午後	外務省主催昼食会 講演 H.E. Mr. Goanpot Asvinvichit, former Deputy Minister of Commerce グループディスカッション Human Resorce Network/Computer Network/Travel Network 全体会 (グループディスカッションまとめ)
夜	首相府青年局主催歓迎会 アングマンプリンセス号乗船 & 出港
6月23日(土)	サメッド島へ到着 歓迎式 代表団小学校訪問
午後	海岸にて昼食 & 自由時間 帰船
夜	閉会式 SIGA Report の署名式・実行委員長からの挨拶 第28回「東南アジア青年の船」記念イベント ビデオ・スライドショー・SI Raffle・タイ観光局主催ファンタジーナイトなど
6月24日(日)	下船式 第15回 SIGA への引継ぎ式 (日本へ)



相手を認めること

～パラリンピックのボランティアを務めて～

兩宮 義人

(第11回「世界青年の船」参加青年)

内閣府の事業は、父が青年の船（第2回）の既参加者ということもあって、私が小さい頃からいろいろな話を聞いていました。一度は行ってみたいと強い気持ちはあったものの学生の時はチャンスがなく、結局会社に勤めるようになってからチャンスが巡ってきました。会社に勤め始めたばかりでしたが、上司を説得して何とか理解してもらい、2か月の休みをいただき、世界青年の船（第11回）に参加させてもらうことになったのです。

しかし事業参加後、私はそんな理解のある会社を2年足らずで辞めてしまい、ふらっとオーストラリアに行っていました。生活を始めた当初は戸惑うことも多かったですが、生活や仕事も慣れてきた頃にシドニー五輪が迫ってきました。シドニー大学で柔道を教える私はもちろん「柔ちゃん応援団」で柔道を見に行きました。オリンピックは本当に活気あふれるすばらしいイベントだと実感しました。

その後、パラリンピックもシドニーで開催されましたが、オリンピックの時とはかなり対照的でスポンサーの殆どは撤収していました。それにボランティアの人達もずいぶん減ったことがすごく残念でした。私は障害を持つ人達も精一杯頑張っているんだということを、世界中の人々に分かっ

てもらえるチャンスなのにと呟いてしまいました。だから私はオリンピックでの仕事を活かして、パラリンピックでは報道関係のボランティアをしました。ジャーナリストなどメディア関係者が試合結果や選手の個人情報などいろいろな要望に応じ、提供する仕事をしました。それほど忙しくなかったけれど、多くのボランティアの人々と知り合い、とても貴重な経験ができたと思います。

海外で暮らして、日本とは違うということは何度か経験しましたが、その中で一番見習うべきだと思ったのは人の話を最後まで聞くということです。共同生活に話し合いは欠かせません。ある日のパラリンピックのミーティングで一人の男性が口火を切りました。蕩々とした語りは1分が過ぎ2分が過ぎ、そしてとうとう5分が経ちました。この間、誰も口を挟まないでじっとその人の話を聞いているのです。次に別の男性が話し始めました。彼の話も長く、皆は背中を丸めて聞いていましたが、話の途中で一言も口は挟みませんでした。話し終わると、一人の女性が「私は思うんだけど」と意見を述べ始めました。決して大きな声ではないその発言に、だれも無駄口をたたかずじっと話を聞き、そしてその意見を聞き終わってからまた違う誰かが自分の意見を述べるのです。

パラリンピックのボランティアオフィス。▶
夜遅くまで活動するスタッフ

いろいろな個性が集まっていますから、当然そこには仲の良い者同士もいれば気の合わない者同士もいます。それでも反対意見であれ、誰がどんな意見を述べようとも最後まで耳を傾け、そして自分のもっている意見を最後まで言うことができるという本当の意味での話し合いがありました。さらに感心したのは多数決が存在しないことです。最後の一人が同意するまで話し合いは終わりません。これはみんながみんなを同等の仲間だと認めているからだと思いました。

パラリンピックに携わったのはたった3週間でした。考えてみればあまりにも当たり前のことばかりでした。その「当たり前」の生活の中で私自身が一体どう変わったのかと考えたのですが、やはり何も変わっていないと思います。ただ、新たな視点をもつことだけはできました。それは私を含め、多くの人々が幸せになれる環境にすでに恵まれているということに気づいたことです。様々な異なった質をもつ人々や様々な問題を抱える人達が共存し、そこにはいろんな課題があります。そんな中で人間として生まれてきた以上、私は「いろんな」人間とつき合っていきたい、「当たり前」につき合っていきたい、そして障害を持つ人が「自分」をもち続け、周りの人々と一緒に生きていければと願うのです。パラリンピックを思い返す度に、参加者の、時には世間の冷たい視線を浴びながらも互いに支え合い最後まで軽やかに自分



を押し通すそのしなやかさ、どんなに打ちのめされても立ち上がる力を持ちいつかは笑っているたくましさ、どんな人に対しても自分なりの態度で接し周りの人々を大切にしながら闘っていける勇気と優しさそして明るさ…。

私は、それらを決して「忘れるな！」と常に心に語りかけられています。



『子ども・若者の居場所の構想－

「教育」から「関わりの場」へ』（学陽書房）

田中治彦 編

「自分の居場所がない」と感じている子どもや若者が多い。しかも自分の部屋がある人でもそう感じている。すなわち「居場所」とは単なる物理的な占有空間ではない。居場所には、自分がゆったり落ち着ける「空間」だけではなく、自分の将来への展望という「時間」的な見通しが必要なのである。一昔前であれば自分が大人になった時どうなるだろうとか、自分は将来何をしているだろうかという予測はつきやすかった。期待されている社会的な役割が明確だったし、自分がモデルとする大人が回りに多数存在した。ところが現代社会では大人になったときのモデルも多様化し複雑化してしまった。社会が激しく動くので、若者は常に自分と社会との位置どりを確認しながら進まねばならない。そこに「居場所のなさ」を感じることもあるし、また「自分探し」も始まるのである。

本書は近年多発している若者による不可解な事件に触発されて、現代の子ども・若者の実情を「居場所」をキーワードとして考察したものである。子ども・若者の現実を見るために筆者らは、子どもの遊びの世界、メディアとサブ・カルチャー、消費社会、ジェンダーなどに焦点を当てた。そして、子どもと若者の居場所空間をいかに構想できるかを追求した。ここで見えてきたものは、従来の「教育的手法」が崩壊しつつあることであった。すなわち、大人が良かれと思う「教育目標」を設

定して子どもをそこまで「到達」させるという手法である。子どもたちは目の前にぶら下げられたニンジンである教育目標自体を疑っているし、到達してももはやニジンは無いだろうと予感している。「教育」「育成」「指導」という用語と手法が子ども・若者の世界で無力化しつつある。

それでは大人たちはどのように子ども・若者と対峙したらよいかであろうか。それは「教育」「育成」「指導」から、「関わり」と「参画」への発想の転換である。居場所は空間のみならば時間的展望も必要であると言ったが、さらに第三の要素「関わり」が大切である。現代の子ども・若者にはこの人と人との「関わり」が決定的に不足している。同年代のものが常にいて、年長のものも話し相手になるようなそんな「居場所空間」を私たちは豊富に用意する必要がある。さらに居心地よさは個人や世代によってかなり左右される。居心地よい空間は子ども・若者自身の手によって創り上げられるのが効果的である。そうすれば閑古鳥が鳴いている公園や、まじめ青年しか集まらないようなプログラムは解消されるであろう。現代の子どもや若者をめぐる問題の解決のためにも日本社会の活性化のためにも、今後は居場所空間の確保と、子ども・若者の「参画」を保証することが大切である。そのためには大人の側も「指導する」という立場から「関わり、参加を促す」立場へと発想と姿勢を転換していく必要があるのである。

「子ども・若者の居場所の構想」10章「居場所づくりの方法論」より抜粋

～グループワークの限界と可能性～

本章では子どもや若者の居場所を構想していく際に必要となる方法論に焦点を当てて考えたい。日本の戦後の青少年指導において最も影響力があったのがグループワーク理論であり、またグループワークは世界的にみても20世紀の青少年教育界に大きな足跡を残している。これまでの各章で見てきたように、1980年代以降、青少年を集団化して指導するという手法そのものの有効性が問われているが、一方でグループワークの発展形態ともいえる各種ワークショップや参加型学習の手法は環境、国際理解、ジェンダーなどの現代的課題を理解するための方法論として脚光を浴びている。

ここでは、20世紀を通じて発展してきたグループワークの手法について検討することにより、過去の青少年指導法についてその特質と課題を整理し、今後子どもや若者と関わり、居場所作りを行う際に有効と思われる方法論を検討してみたい。

1節 グループワークの起源

〔最初のグループワーク〕

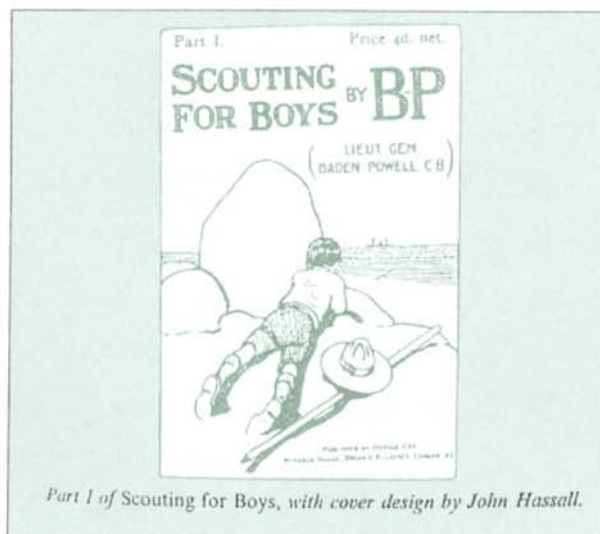
歴史的にみたととき、グループワークはもともと理論としてではなく実践の中で発展してきた。YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ボーイズ・クラブ、セツルメント運動において青少年と関わる課程でグループ活動のもつ意義が認識されてきた。これらはいずれもイギリスに起源をもつ団体ないしは運動である。

〔中略〕

ボーイスカウトは、英国軍人であったロバート・ベーデン・パウエルによって1907年に始められた青少年活動である。ベーデン・パウエルはボア戦争において英国の労働者階級の少年たちが身体においても愛国心においても劣っていることを憂い、少年の指導書として「スカウティング・フォア・ボーイズ（少年のための斥候術）」を著した。この本は、北米で活躍していたシートンの森林生活術をベーデン・パウエル自身が開発した少年向けの斥候術が取り入れられていた。

1908年の出版以来、英国全土でスカウトの結成が相次ぎ、2年後には10万人の会員を擁す一大青少年団体となっていた。ボーイスカウトの基本はパトロールシステムである。6～8人の少年でひとつのパトロール（班）をつくる。この班が4つ集まって一つのトループ（隊）となる。大人はトループに間接的に関わるのみで、パトロール自体は少年自身が運営する。このパトロール・システムが後のグループワークのひとつの源流となっていく。

〔後略〕



Part I of Scouting for Boys, with cover design by John Hassall.

「スカウティング・フォア・ボーイズ」初版本の表紙

平成 13 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）

今年度ブロック大会は九州ブロック大会を皮切りに全国 8 ブロックで開催されます。参加希望の方はお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

*プログラム詳細は実行委員長または都道府県 IYEO 会長にお問合せ下さい。

北海道・東北ブロック大会

- ・日 時：10月13日（土）～14日（日）
- ・会 場：名川町チュリウス 青森県三戸郡名川町
- ・プログラム：体験学習（蕎麦打ち、陶芸教室、りんご・ぶどう狩り）
歓迎交流会、事後活動報告等
- ・参加費：宿泊者 10,000 円（子供 7,000 円） 体験学習のみ 3,000 円
- ・申込方法：以下の口座に参加費を納入して下さい（〆切 9 月 28 日）
青森銀行 尾上支店 普通 1006533
北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い実行委員会 事務局次長 小野 竜也
- ・お問合せ先：奥谷 史人 Tel/Fax: 0178-75-1594 E-Mail: okutani@kb3.so-net.ne.jp

九州ブロック大会

- ・日 時：9月22日（土）～23日（日）
- ・会 場：宮崎市中央公民館 宮崎県宮崎市浄土江町 109
- ・プログラム：パネルディスカッション「原点～未来へ 地域からの国際交流」
分科会、懇親会、分科会報告および会員の活動報告 他
- ・参加費：懇親会 4,000 円（小学生以下 1,000 円） 宿泊 5,000 円
- ・申込み先：下記まで郵送または FAX にてお申し込み下さい（〆切 9 月 10 日）
〒880-0934 宮崎県宮崎市大坪東 2 丁目 16-6 浅賀 智絵
FAX: 0985-32-5018
- ・振込み先：宮崎銀行大淀支店 普通預金 口座番号 5905
宮崎県青年国際交流機構 事務局長 浅賀 智絵
- ・お問合せ先：上杉 聖次 Tel/Fax: 0982-37-0690 E-Mail: Niwa2828@ma.wainet.ne.jp

Coming Soon!

関東ブロック大会 (12月1日～2日)

開催地 群馬県利根郡水上町 水上温泉 去来荘

実行委員より 国際交流活動を行っていく上で日本の伝統文化を知る事は大切な事です。本大会では地元で伝わる芸能に触れ、東京の水源地としての魅力もご紹介します。会場となる水上町は自然豊かな温泉街で、皆様の日頃の疲れを充分にとって頂けるものと思っております。

東海(旧 中部)ブロック大会 (11月10日～11日)

開催地 静岡県小笠郡小笠町 小菊荘

主なプログラム 国際交流講演会、グループディスカッション
体験学習農園(キウイ狩りと農業体験)



実行委員より 「農業を切り口に、地域から地球規模の国際交流について考えよう。東海ブロック各県の物産を持ちより、IYEOについて語り合おう。」

* 中部ブロックは8月3,4日開催の第34回全国推進会議における採決により東海ブロックに名称変更されました。

平成13年度青少年国際交流を考える集い(ブロック大会)開催日程

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	青森県	10月13日～14日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	群馬県	12月1日～2日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	石川県	10月27日～28日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海*	静岡県	11月10日～11日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	京都府	平成14年 1月26日～27日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	広島県	平成14年 1月19日～20日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	愛媛県	平成14年 1月26日～27日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	宮崎県	9月22日～23日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

◆内閣府青少年国際交流事業地方旅行プログラム受入れ◆

◆21世紀ルネッサンスリーダー招へい事業		9月26日(木)～10月10日(水)
【地方旅行】10月3日(水)～7日(日)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 函館市 (教育コース) ・ 帯広市 (リーダーシップコース) ・ 大阪府 (ITコース) ・ 沖縄県 (経済コース) 		
(対象国: インドネシア、ウイトナム、カンボディア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、マレーシア、ミャンマー、ラオス、インド、オーストラリア、ニュー・ジーランド、バハレーン、アラブ首長国連邦、ケニア、ルウェー、スウェーデン、カナダ、メキシコ、ヴェネズエラ)		
*各県へ各国1名ずつ21名訪問		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島県 (ベルギー、パラオ、ロシア、トリニダード・トバゴ: 各団5名、計20名) ・ 栃木県 (中国、エジプト、フィンランド、ジャマイカ、パプア・ニューギニア: 各団5名、計25名) ・ 和歌山県 (ジョルダン、モンゴル、トンガ、ユーゴ・スラビア: 各団5名、計20名) ・ 大分県 (イタリア、韓国、ネパール、タンザニア: 各団5名、計20名) 		
◆第14回「世界青年の船」事業		10月17日(水)～10月26日(出航)
【地方旅行】10月20日(土)～22日(月)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛知県 (ケニア、オーストラリア 計21名) ・ 三重県 (モーリシャス、ブラジル 計21名) ・ 広島県 (エジプト、インド、イギリス 計30名) ・ 山口県 (南アフリカ、ギリシャ 計21名) ・ 熊本県 (バハレーン、アメリカ、スリランカ 計30名) ・ 大阪市 (U.A.E.、フィンランド 計21名) 		
◆日本・中国青年親善交流事業(招へい)		11月14日(水)～12月2日(日)
【地方旅行】11月17日(土)～11月29日(木)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県、岐阜県、兵庫県、長崎県 		
*中国青年約30名が各都道府県を順番に訪問します。		
◆日本・韓国青年親善交流事業(招へい)		11月7日(水)～21日(水)
【地方旅行】11月11日(日)～19日(月)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田県、京都府、北九州市 		
*韓国青年約40名が各都道府県を順番に訪問します。		

～各都道府県(市)の皆さま、ご協力よろしくお願ひします。～

「世界青年の船」国際・リユニオン開催のお知らせ

第8回「世界青年の船」国際・リユニオン、今年は初めてケニアで開催されます！ケニアの事後活動組織のメンバーが、嗜好を凝らした内容のプログラムで皆様のご参加をお待ちしています。

- 日程: 2001年11月9日(金)～13日(火)[現地集合、現地解散]
- 開催地: ケニア共和国、ナイロビ及びモンバサ
- 参加費: US\$300(4泊5日の現地プログラム参加費)
 - * 往復航空券及びケニア入国に必要なビザは各自でご手配ください。
 - * ツァヴオ国立公園のサファリ・ツアーでは、入場料が別途 US\$27 かかります。
 - * ケニア入国に際しては、黄熱病の予防接種が必要となりますので、必ず予防接種を受けください。
- 申し込み締切 : 2001年10月7日(日)
- 申し込み先 : 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階
日本青年国際交流機構「世界青年の船」リユニオン担当: 齋藤珠恵
Phone: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436 E-mail: swyreunion@iyeo.or.jp
- 申し込み用紙 : 「世界青年の船」事後活動組織ホームページ(<http://www.swyaa.org>)からダウンロードするか、日本青年国際交流機構へ用紙請求をお申し出下さい。



<リユニオン日程案>

日付	時間	内容
2001年 11月9日(金)	午前 午後 夕方	ナイロビ集合、オリエンテーション、アイスブレイク 施設見学、地元青少年との交流 歓迎レセプション
11月10日(土)	午前 午後 夜	ティカ・タウン(14 Falls)で自然観察 モンバサへ向けて出発(バス内で事後活動に関する意見交換) モンバサ到着
11月11日(日)	11:00～	SWY14 入港 にっぽん丸船上活動及び船上レセプション・パーティーに参加 第14回「世界青年の船」参加青年との交流
11月12日(月)	17:00	にっぽん丸船上活動及び昼食 SWY14 見送り フェアウェル・ディナー
11月13日(火)	早朝 午後	ツァヴオ国立公園でサファリ・ツアー(野生生物の生態について学ぶ) オブショナル・ツアー モンバサで解散(またはナイロビへ移動、解散)

Refresh Cruise 2001

お待たせしました！！「あの感動をもう一度」をテーマに、96年から実施されていましてリフレッシュクルーズが、21世紀を迎え装いも新たに再び出航します。今年はマレーシアのマラッカを訪れた後、シンガポールから東京までのクルーズをお楽しみいただきます。ぜひ昔のお仲間と一緒にご参加ください。

12月2日（日）～12月13日（木）

（お一人様旅行代金） 215,000円（東京・大阪発）

旅行代金の中には、往復旅費・船内諸費用・マレーシア、シンガポール宿泊費が含まれます。

ただし、日本国内の旅費およびシンガポール国内滞在中の食費の一部は含みません。

日 程	スケジュール	備 考	食 事
12月2日（日）	東京（成田）発 13:00(JL723) 大阪（関空）発 11:50(JL721)	クアラルンプール泊	夕：○
12月3日（月）	午前：クアラルンプール観光 専用車にてマラッカへ移動 午後：マラッカ観光	マラッカ泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月4日（火）	午前：マレー鉄道にてシンガポールへ 午後：フリータイム	シンガポール泊	朝：○ 昼：○ 夕：×
12月5日（水）	午前：シンガポール市内観光 午後：乗船 22:00 出港	船内泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月6日（木）～ 12日（水）	航海日 船内イベントをお楽しみください	船内泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月13日（木）	10:00 東京（晴海港）着 手続き終了後解散		朝：○

リフレッシュクルーズ2001

利用予定ホテル：クアランプール/ニューワールドホテル、マラッカ/ルネッサンスホテル、シンガポール/ANA ホテル
添乗員：同行

利用予定航空会社：日本航空 食事条件：朝食11回 昼食10回 夕食11回（機内食は除く）

(1) 参加人数が35名に満たない場合は、中止させていただく場合があります。

(2) 本船は「第14回世界青年の船」事業実施中であり、東京へ向かう日本青年（約120名）、管理部員（約25名）、世界青年の船同窓会代表者（約12名）、及び内閣府職員が乗船しております。

(3) 参加資格：日本青年国際交流機構会員

(4) 船内イベント（予定）：「世界青年の船」参加者と語る会・スポーツイベント・映画上映・参加者の自主企画・船内見学ツアー等

お申し込み方法

お申し込み用紙と詳細資料をお送り致しますので、下記のお申し込み先までご連絡下さい。
(詳しい旅行条件を説明した書面をお渡ししておりますので、事前にご確認の上お申し込み下さい。)

●**お申込先** 日本青年国際交流機構 (IYEO)

リフレッシュクルーズ担当：高橋、田中
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館 6階

TEL: 03-3249-0767

FAX: 03-3639-2436

●**旅行主催** 東急観光株式会社新宿支店

国土交通大臣登録旅行業第38号

(社)日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-20-2

TEL: 03-3340-0621 FAX: 03-3340-0628

一般旅行業務取扱主任者：古越 将

担当：石本・小井土 No.6112

定員50名になり次第締め切らせていただきます。

キ リ ト リ セ ン

リフレッシュ・クルーズ説明書申込用紙

ふりがな 氏 名		性 別		年 齢	
住 所	〒				
電 話		FAX			
e-mail		同行予定人数	名		
〔通 信 欄〕					

平成13年度内閣府青年国際交流事業報告会（予定）

現在は、第28回「東南アジア青年の船」が、プログラム進行中です。皆さんのお手元にマクロコズムが到着するころには、航空機派遣のメンバーは帰国しています。世界情勢の厳しい時ですが、このような際だからこそ平和のシンボルともいえる青年国際交流事業の存在を大切に育てていきたいものです。

ぜひ、今年度の参加青年の報告会に参加して彼らと感動を分かち合ってください。

*〔平成13年度航空機による派遣事業〕

日 時：平成14年2月 3日（日）13時～16時30分

*〔第28回「東南アジア青年の船」事業〕

日 時：平成14年2月10日（日）13時～16時30分

*〔第14回「世界青年の船」事業〕

日 時：平成14年3月 3日（日）13時～16時30分

～ 会 場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター ～
国際交流棟 1F 「国際会議室」

編集後記

「東南アジア青年の船」が第28回目を迎える今年、初めて日本で参集し日本から事業のスタートがきられることになりました。皆さんのお手元に

今号が到着する頃には始まっています。

各事業での地方プログラムも次々と続きますので、皆さんのご協力をお願い致します。

*本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 9月号 Vol.42 2001年9月1日発行（隔月発行）

編 集：マクロコズム編集委員会

発 行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力：内閣府政策統括官

（総合企画調整担当）

日本青年国際交流機構

定 価：198円（本体189円）

印 刷 所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

国際青年育成交流事業課題別視察

国際青年育成交流（招へい）事業において7月17日（火）5分野6コースに分かれて課題別視察を実施し、外国青年に日本の各分野の実情を知ってもらう機会としました。

教育コース



▲ 新宿区立富久小学校 竹馬を教わる外国青年



新宿区立戸塚第三小学校
校庭で楽器を披露する外国青年

文化コースⅡ 歌舞伎

▼ 国立劇場の前にて



子ども達と熱心に話しをする外国青年



文化コースⅠ 茶道（裏千家東京道場）

▼ 貴重な鐘ならしに挑戦！



▲ 会社概要を熱心に説明して下さる職員の方々

経済コース 東京ガス株式会社 扇島工場



社会福祉コース のぞみ園

▼ 利用者と一緒に作業体験



Refresh Cruise 2001

お待たせしました！！「あの感動をもう一度」をテーマに、96年から実施されてきましたリフレッシュクルーズが、21世紀を迎え装いも新たに再び出航します。今年はマレーシアのマラッカを訪れた後、シンガポールから東京までのクルーズをお楽しみいただきます。ぜひ昔のお仲間と一緒にご参加ください。

12月2日（日）～12月13日（木）

（お一人様旅行代金） **215,000円（東京・大阪発）**

旅行代金の中には、往復旅費・船内諸費用・マレーシア、シンガポール宿泊費が含まれます。
ただし、日本国内の旅費およびシンガポール国内滞在中の食費の一部は含みません。

日 程	スケジュール	備 考	食 事
12月2日（日）	東京（成田）発 13:00(JL723) 大阪（関空）発 11:50(JL721)	クアラルンプール泊	夕：○
12月3日（月）	午前：クアラルンプール観光 専用車にてマラッカへ移動 午後：マラッカ観光	マラッカ泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月4日（火）	午前：マレー鉄道にてシンガポールへ 午後：フリータイム	シンガポール泊	朝：○ 昼：○ 夕：×
12月5日（水）	午前：シンガポール市内観光 午後：乗船 22:00 出港	船内泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月6日（木）～ 12日（水）	航海日 船内イベントをお楽しみください	船内泊	朝：○ 昼：○ 夕：○
12月13日（木）	10:00 東京（晴海港）着 手続き終了後解散		朝：○

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

旅のすべてを知っている東急観光です。



豊かな感動のステージへ
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>